

# れきしみち

- 終戦 75 周年記念特別展「戦争に行くということ」
- 先行紹介！開館 30 周年記念特別展「家康と松平一族」
- 連載「安城歴史散策 風を感じて歴史を歩く 5」
- 常設展の展示替えの紹介 (2)
- 連載「城址公園 万葉花ごよみ その三 - あじさい -」
- ナイトミュージアム、市民ギャラリーよりお知らせ

2020.7  
No.117



明治航空基地の兵士たちが  
一筆綴った帳面 (小林氏寄贈)



大心院軍人木像  
(南明治町内会連合会寄贈)



本多忠高墓碑



## 特集：戦争に行くということ

## 夜の博物館に行こう！ 「ナイトミュージアム」 8月28日(金)～8月30日(日)

8月28日(金)～8月30日(日)の3日間は安城市歴史博物館、安城市民ギャラリー、  
安城市埋蔵文化財センターを夜8時30分(入館は夜8時)まで開館します！(※通常は夕方5時まで)  
期間中は様々なイベント、アート企画、博物館ナイトツアーをおこないます。ぜひ夜の博物館にお越しください！

### 幻灯空間

夏の夜を光アートで演出。光の切り絵ワールドが  
ギャラリー全体を包み込みます。

【開催日】 8月28日(金)～8月30日(日)  
19:00～20:30

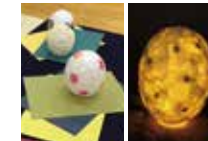


### 和紙で風船アート

膨らませた風船に和紙を貼り、和紙の丸い  
ランプシェードを作ります。

【開催日】 8月28日(金) 18:00～20:00  
【会 場】 市民ギャラリー創作実習室  
【定 員】 40名(先着順)  
【参加費】 1個100円

◎申し込み不要  
(当日17:30～受付)



### 歴博演芸場「三味線コンサート」

超絶技巧の演奏で注目を集める三味線奏者・  
山口晃司さんのステージです。

【開催日】  
8月28日(金) 17:30～18:30

【会 場】  
安祥城址公園

【出 演】  
山口晃司さん  
(世界最速の三味線奏者)



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員数・開催方法や日時・内容等を変更する  
場合もありますので、最新情報はHPにてご確認ください。



### 土器ドキ晩ゴハン

火きり杵と臼で火をおこし、復元弥生土器で  
ご飯を炊きあげます。

【開催日】 8月29日(土) 17:00～19:00  
【会 場】 歴史博物館前  
ピロティ

【定 員】 家族かグループ5組  
(1組5名まで/先着順)  
【参加費】 1人100円

申込み 8月4日(火)朝9時～  
電話(0566-77-6655)で受付開始。



### 和のマジックショー

イタリア国際大会優勝など、世界で数々の  
実績を誇る向井健人さんのマジックを披露。

【開催日】  
8月29日(土) 16:30～

【会 場】  
安祥城址公園

【出 演】  
向井健人さん  
(大学職員マジシャン)



### 博物館ナイトツアー

夜の常設展示をめぐります。昼間とは違ったドキドキ感をお楽しみください。

【開催日】 8月29日(土)、30日(日)  
①18:00～②18:30～③19:00～④19:30～  
①②③は事前申込、④は当日受付(18:00～)

【会 場】 歴史博物館2F 常設展示室  
【定 員】 各10名(先着順)

【参加費】 100円  
【対 象】 3才以上

申込み 8月18日(火)朝9時～  
電話(0566-77-6655)で受付開始。



### 公園内マルシェ

飲食のキッチンカーから雑貨やクラフトまで。  
公園内のマルシェもぜひお楽しみください。

【開催日】 8月28日(金)～30日(日)  
12:00～20:30

【会 場】 安祥城址公園



### 風鈴づくり

ガラスに自由に絵を描いて、  
オリジナルの風鈴を作ります。

【開催日】  
8月30日(日) 13:00～20:00

【会 場】  
歴史博物館 体験学習室

【参加費】 300円  
◎申込不要(当日受付)

80個  
限定  
(先着順)



### 安城市民ギャラリーよりお知らせ

#### 市民ギャラリー企画展

「酒井敦美 光の切り絵展～てのひらのしあわせ～」



照らす光でその姿を現す「光の切り絵」。  
光の切り絵作家・酒井敦美氏のメッセージ  
性の高い作品を展示。

【開催期間】 令和2年8/21(金)～8/30(日)  
【時 間】 9:00～17:00  
【場 所】 展示室D・E  
【観 覧 料】 300円(中学生以下無料)

※ナイトミュージアム開催時は20:30までご覧いただけます。(入館は20:00まで)

#### 市民ギャラリー企画展

「愛知のえほん作家たち 創作えほん作品展」



なかがわ創作えほん教室主宰 中川  
たかこ氏を中心に、愛知で活躍する絵  
本作家たちの創作絵本の作品を紹介。

【開催期間】 令和2年8/21(金)～8/30(日)  
【時 間】 9:00～17:00  
【場 所】 展示室C  
【観 覧 料】 無料

### 安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の  
居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

#### 【全館共通事項】

住 所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀 30番地  
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館  
開館時間 / AM9:00～PM5:00  
TEL: 0566-77-6655 FAX: 0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / AM9:00～PM5:00  
TEL: 0566-77-6853 FAX: 0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / AM9:00～PM5:00  
TEL: 0566-77-4477 FAX: 0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / AM9:00～PM9:00  
TEL: 0566-77-5070 FAX: 0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

安城市歴史博物館 <https://ansyobunka.jp/> [f](#) [i](#) [t](#)





明治航空基地の兵士たちが一筆綴った帳面  
(小林氏寄贈)

軍隊に入営した時点で、兵士の命は軍に預けられます。ただ、戦時でない平時は、軍施設での兵役を務めていました。所属する聯隊が国外に派兵されることになれば、兵役期間を終えて「運よく」除隊する場合もありました。

昭和十二年に日中戦争が始まると、兵士は常に戦場に駆り出されました。歩兵第十八聯隊に所属した兵士たちは日中戦争で中国大陆に渡り戦い続けましたが、アジア・太平洋戦争の際にサイパン・グアム島へ進駐していききました。他の隊に所属した兵士も同様に国外へ派遣されました。

また戦場に臨む兵士だけではなく、造兵廠で兵器製造に従事する人、指導する立場に変わって軍学校などで教える人もいました。

大戦末期の昭和十九年五月には明治村(市内東端・根崎・和泉町)に海軍明治航空基地が造られ、ここへ飛行機整備に携わる人や軍医、沖縄特攻作戦に備える搭乗員たちが集まりました。この地域だけでも様々な人々が戦争にかかわっていました。

## 戦争に行った人たち

## 終戦75周年記念特別展

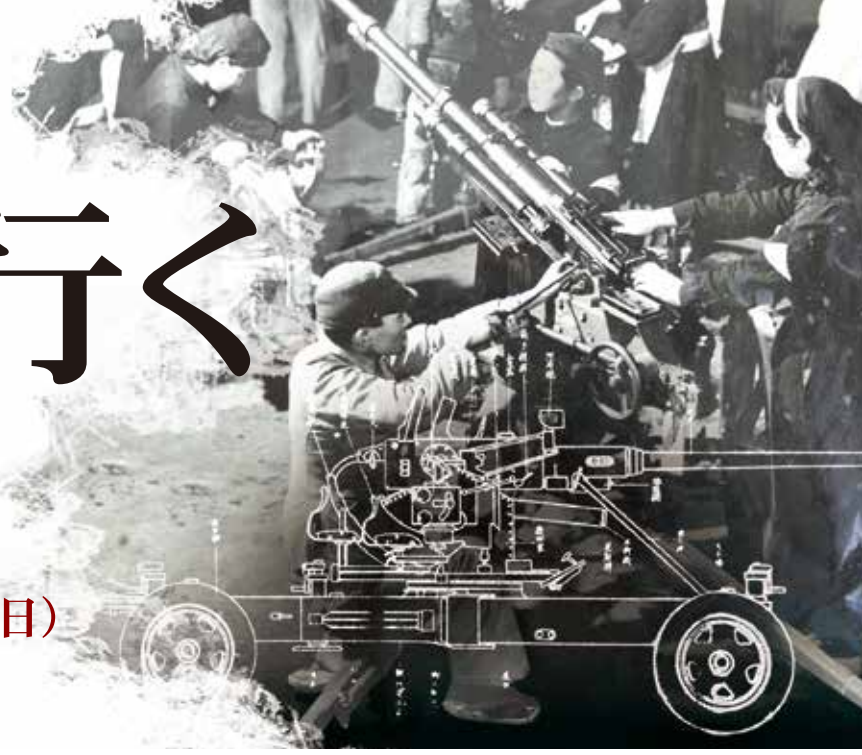
# 戦争に行くということ

令和2年

7月18日(土)～9月13日(日)

【観覧料】400円(中学生以下は無料)

文責:三島一信



高射機関砲の組立作業(北九州市立図書館蔵)  
「ボ」式四十耗高射機関砲説明書図面(鈴木氏蔵)

近代的な軍隊整備を目指した明治政府によって、明治六年(一八七三)に徴兵令が制定されると、一定の年齢に達した男子が軍人としての訓練を受け、戦場に送られる体制ができました。これにより近代の日本は対外戦争を重ね、戦場を拡大させていきました。それとともに多くの兵士を戦場に送り出していくことになりました。

特に昭和六年(一九三二)の満州事変以降、昭和二十年に終戦を迎えるまでは、徴集・志願を問わず、数多くの人々が兵士として出征し、戦場を経験することになりました。中国や南方の国外に派遣され、そこで戦った人だけではありません。飛行機の整備兵だった人、軍医だった人、教育に携わった人、兵器の製造に携わった人、本土を護るために特攻や防衛をした人などが様々な役割をもって戦いました。つまり、戦場に臨まなくても「戦争に行った」のでした。

今年は、日清戦争から一二五年、日露戦争からは一五五年が経ち、アジア・太平洋戦争の終結終戦からは七五周年にあたります。現在、すでに兵士として戦争を経験した人々は少なくなっています。

今回の展覧会では、寄贈された数多くの資料や遺品を通して、兵士たちが経験した「戦争に行く」とはどういうものだったのか、彼らが過ごした「戦場」とはどのようなものだったのかを紹介いたします。



日清戦争時の一等兵の軍服  
(三井氏寄贈)

## 戦争から還る

兵士が郷土に還るのは、兵役を終える除隊や、平時、終戦になり復員兵となった時でした。戦地で受け取った手紙や慰問袋、日記などを持ち帰りました。中には焼却処分されるはずだった資料を持ち帰った人もいました。昭和初期くらいまでは入営の時に祝ってくれた人たちに對して記念として盃を贈ることもありました。

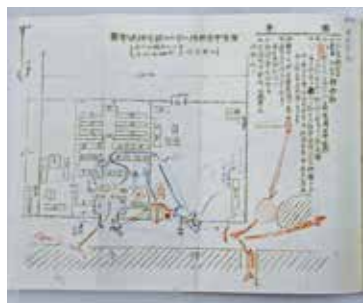
またそれだけではなく戦争へ行った人たちの中には、傷痍した人、戦死や病死した人など郷里に戻ってこられなかった人も大勢いました。戦争で亡くなった兵士は、出身地域で盛大に町葬が執り行われ、英霊として祀られました。町葬の際には、どのような戦闘で亡くなったのか記録したのもも配布されました。

終戦のわずか二週間前に爆弾の破片を全身に受け戦死した下士官もいました。日清・日露の両戦争で亡くなった土官・兵士らを木製の人形にして祀ったものも残されています。

戦争は多くの命を奪ってきました。昭和二十年の終戦によって戦争は否定され、戦争から還ってきた人たちの人生は戦後大きく変わっていくことになるのでした。



大心院軍人木像(南明治町内会連合会寄贈)



杉山大尉戦死時の戦闘経過図(杉山氏寄贈)

## 戦争の時代

近代日本を通してみると、明治二十七年からの昭和二十年までの約八〇年の間に日清・日露戦争、第一次世界大戦、アジア・太平洋戦争があり、また、日清から日中戦争にかけては朝鮮半島や中国大陆に日本軍が常に駐留していました。

このような時代、戦争を遂行するための様々な国の政策だけでなく、地域には軍事後援を担う尚武会などが組織され、当時の人々の生活にとって戦争や軍隊の存在は身近なものになっていたのです。

男子は一七〇歳まで国民軍名簿に登録され、二〇歳になると徴兵検査を受けました。軍隊の入営が決まると町や村では盛大に祝って見送りをしました。その際には家族に決意の手紙や遺書などを残し、恩師や区長などに出征の報告を葉書で知らせました。

安城市域を含む三河地方の人は、はじめ陸軍の名古屋の第三師団、その後豊橋にあった歩兵第十八聯隊に入営しました。

軍隊に入営すると、教育・訓練を受けて一人前の兵士となりました。また、将校や下士官となるためや、技術を身につけるため軍学校に入ることもあり、技術者出身者は海兵団で教育・訓練を受け、各地の海軍施設に所属しました。



兵士入営幟(柏原氏寄贈)

## 関連事業

### 記念講演会

※要予約

### 「戦場と兵士ーアジア・太平洋戦争を中心にー」

【日時】7月18日(土)14:00～

【講師】吉田裕氏(一橋大学名誉教授)

【定員】15名(先着順)

【申込】7月7日(火)9:00～電話受付

### 記念講演会

※要予約

### 「出征兵士の手紙を読む」

【日時】8月23日(日)14:00～

【講師】一ノ瀬俊也氏(埼玉大学教授)

【定員】15名(先着順)

【申込】8月7日(金)9:00～電話受付

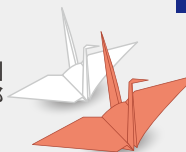
### 8月1日(土)～8月23日(日)

### ▶ 回り灯籠を作ろう

【時間】10:00～16:00

【費用】300円(別途:電球キット700円)

土・日曜日  
限定



※都合により日時・内容等変更する場合があります。ご了承ください。

### 7月18日(土)～9月13日(日)

### ▶ コラボパネル展示

「日本赤十字社と戦時救護活動」

協力:日本赤十字社 愛知県支部

### ▶ 祈りの木に折り鶴を飾ろう

### ▶ 謎ときクイズラリー

【受付】9:00～15:30 【費用】1キット/100円

## 関連イベント



家康と松平一族

会期  
令和3年 1月30日(土) ～ 3月7日(日)

令和二年度を迎え、特別展「家康と松平一族」の開催まで二年を切りました。新型コロナウイルス感染症の影響で緊急事態宣言が発令され、さまざまな影響が出ておりますが、特別展の準備を着々と進めています。前回に続き調査の報告をします。

  
資料調査

今回は三件の資料調査について紹介します。蒲郡市立博物館では、竹谷(蒲郡市)に領地を与えられた竹谷松平家の系図や家康の朱印状などの調査・撮影を行いました。

松山市立子規記念博物館・愛媛県歴史文化博物館では松山藩を治めた久松松平家の資料調査を行いました。松山藩主で長崎探題を勤めた松平定行の書状や系図、松山城絵図などの調査を行いました。

上田市立博物館では、市内藤井町を発祥の地とし、宝永三年(一七〇六)から幕末まで上田藩を治めた藤井松平家の資料を調査しました。



資料調査の様子(長野県上田市立博物館)

 現地踏査

松平一族は、大名・旗本として全国にゆかりの地があります。この展示では資料だけでなく、全国の松平ゆかりの地を確認する現地踏査も重要です。今回は、千葉県・埼玉県の松平一族ゆかりの城跡や寺などの踏査を行いました。

松平一族は、天正十八年（二五九〇）、家康の関東移封に従い江戸近郊に領地を与えられました。幕府成立後には、松平一族は譜代大名として全国に移封されますが、旗本として江戸近郊に陣屋を構える一族もありました。



武蔵松山城(埼玉県比企郡吉見町)

安城歷史散策

文責：片岡晃（安城市歴史博物館 館長）

風を感じて歴史を歩く 5 — 安祥中学校区② —

今回は、安祥中学校を起点とし、歴史博物館周辺の史跡散歩をいたしましたよう。



今回も3.5km以上の距離があるよ。でも、余裕があるなら七ツ井のうち、風呂井、梅井も見つけられるといいね。

本多忠豊・忠高の墓碑

安祥中学校から北上していくと、歩道から僅かに奥に入った場所に安城古城址があります。古城址とは言いますが、「社口社」の鳥居と社があるだけです。平安時代には、志貴荘の荘館があったと言われていますが、詳しいことは分かっていません。安城城が築かれるまで、地頭の居館として使われ、安城合戦の折には松平氏が前線基地として使用していたとも言われています。城郭ではありませんが、安城城よりも古い居館として「古城」と呼ばれています。

県道48号の南町の交差点を東に折れ、岡崎方面に向かいます。四つ目の交差点付近の住宅地に、「本多忠豊墓碑」があります。また、その場所から南下すると安祥城址があります。城址内にあるもう一つの大亀の墓碑は「本多忠高墓碑」です。

本多忠豊は、徳川四天王として著名な本多忠勝の祖父、そして忠高は、忠勝の父です。この父子は、安城城をめぐる攻防で、主君を守るために勇敢に戦いました。

本多忠豊は、天文十四年（一五四五）安城城奪還を目指した松平広

## 竹千代と筒井

忠(徳川家康の父)が窮地に陥った時に、敵陣深く突撃し織田方の注意を引きつけ、広忠の身代わりとなり討死しました。また、天文十八年、広忠の死後、松平軍は今川軍と共に安城城奪回の戦をしますが、その先鋒として勇猛に戦い、討死したのが忠高でした。



本多忠高墓碑



本多忠豐墓碑

らえられた後、竹千代との人質交換が行われました。以後、安城城には、今川氏の城代が置かれました。再び今川氏の人質となった竹千代が岡崎に戻る途中、安城城に立ち寄った場所が七つ井の中の「筒井」です。竹千代が「ぜひこの水を持って帰りたい」と言っている筒井に入れた持ち帰ったのが、名前の由来と伝えられています。



筒井の跡

安城陣屋跡

安城城から安城南部小学校に向かいます。安城南部小学校前の道を隔てた、その向かいにある小高い場所が、「安城陣屋跡」です。元禄十二年（二六九八）、旗本久永内記信豊は、碧海郡安城村・米津村、加茂郡加納村・三箇村、四三五四石の地を知行しました。その出先の役所を「陣屋」と呼びます。はじめは、現在の地より、南の台地の突端にありました。その後移転して、明治維新まで使われていました。



## 安城陣屋跡



## 常設展の

## 展示替えの紹介(2)

昨年度までの改修工事が終わり、四月二日の再オープンにあわせて常設展の展示替えを行いました。しかしご覧いただくはずだった展示は、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大の影響により四月十一日から再度休館ということになってしまいました。

### 展示替えを行った九か所

- ① 顔のメッセージ (西からの風)
- ② 西三河の古代集落 (西からの風)
- ③ 安城城と松平氏の発展 (東からの風)
- ④ 近世村の仕組み (百姓の世界)
- ⑤ 茶屋コーナー (百姓の世界)
- ⑥ 文人 石川丈山の世界 (村の文化)
- ⑦ 俳諧・狂俳の世界 (村の文化)
- ⑧ 三河万歳 (くらしのなかの祭と芸能)
- ⑨ 長屋コーナー (新美南吉と安城)

先回は、中世から近世③④⑤のコーナーを紹介しました。今回は、残る原始・古代、近世の文化、近代のコーナーを紹介します。

### 1 顔のメッセージ

このコーナーは、国指定重要文化財の人面文壺形土器(亀塚遺跡出土)に代表されるように、顔にイレズミのような表現のある資料の系譜や広がりについて紹介しています。人面文壺形土器は中国の歴史書「魏志倭人伝」に書かれた倭人の特徴である「黥面(げいめん)分身(ぶんしん)」「顔と体にイレズミをしている」を彷彿とさせ、弥生時代終末期の風俗を物語る貴重な資料です。



顔のメッセージ

### 2 西三河の古代集落

安城の奈良・平安時代のムラを紹介したコーナーです。その一部を「文字の世界」と題して、木簡・墨書土器を展示替えしました。

安城市域では古代の墨書土器が二〇〇点近く出土しています。地方のムラから出土する墨書土器は、二文字か二文字の単純なものが大半



墨書須恵器「田」

を占めています。また、文字そのものの意味はわかったとしても、器に書くことが何を表すのかわからないものも多数あります。展示では施設名「厨」「寺」、人名「白刀女」、吉祥句「万」、記号としての文字「田」などを記したと推定されるさまざまな墨書土器を紹介しています。

### 6 文人 石川丈山の世界

江戸時代の村の文化をあらわすコーナーです。江戸時代の安城市域の文化活動をけん引したのは、都築弥厚を含む和泉村(市内和泉町)都築一族でした。弥厚は同郷の文人である石川丈山を顕彰し、丈山の二五〇回忌法要を執り行いました。また、都築一族は俳諧もたしなんでおり、弥厚も「和楽」という俳号で句を残しています。今回の展示替えでは、都築一族とこの地域の文化活動について弥厚の伝記である『弥厚翁』や弥厚の句が納められた「続姑射文庫」を紹介しています。



続姑射文庫

### 9 長屋コーナー(新美南吉と安城)

新美南吉の安城高等女学校での教員生活を物語る資料に展示替えしました。学校の機関紙、生徒詩集、色紙などです。詩集は南吉が学年担任を務めた一九回生を指導してつくったものです。昭和十四年(一九三九)二月の第二詩集からはじまり同年九月の第六集までつくれ、その中の第四詩集『麦笛』を紹介しています。南吉は「流れに寄せる」と題して安城の新緑の風景をつづっています。

文責：野上真由美・伊藤基之

### 城址公園

## 万葉花ごよみ

その三ーあじさいー



安祥城址公園に咲く万葉集ゆかりの花や植物たちを紹介していきます。

梅雨時に咲く花といえば、あじさいではないでしょうか。六月から七月にかけて色とりどりに見事な花を咲かせるあじさいはとても人気があります。よく見かけるのは手まりのように咲く西洋あじさいです。これは日本のあじさいがヨーロッパに渡り、品種改良を重ね逆輸入されてきたものです。花といわれる部分は、本当は萼のことです。「万葉集」の中であじさいの花を詠ったものは二百あります。

あじさいの八重咲く如く やつ代にを  
いませわが背子 見つづ憶はむ (橘諸兄)

「あじさいが幾重にも見事に咲くように、いつまでもお元気でいてください。あじさいを見るたびにあなたを思い出します」  
橘諸兄が宴の主人である丹比国人(多治比国人)を詠んだ歌です。「八重咲く」は幾重にも重なっていること、「やつ代に」は長い年月をさし、国人を祝って詠んだものです。

言とはぬ 木すらあじさい 諸弟らが  
緑りのむらとに あざむかえり (大伴家持)

「ものを言わない木でさえ、あじさいのように色のかわるものがあります。諸弟の口のうまさにつかりだまされてしまいました」  
大伴家持が、後に妻となる大伴坂上大嬢に贈ったものです。家持が弁明しているのか、相手を買っているのか、前後の相聞歌からも解釈は分かれ、真実は二人のみ知るようです。



## 自由研究は歴博で相談・発表をしよう!

7月24日(金・祝)・25日(土)・26日(日)

### 夏休み自由研究相談会

- 【日時】 10時～15時
- 【会場】 歴史博物館 体験学習室
- 【対象】 小学3年生～中学3年生まで
- 【内容】 歴史に関する自由研究のテーマ決めや調べ方の相談、参考になる本などの紹介をします。

- ▶相談時間は最長30分まで
- ▶相談者が多い場合は、お待ちいただくことがあります。



※事前に予約が必要です。(7月14日(火)から電話受付)  
予約時に希望する日時、調べたいこと等をお申し出ください。

申込み・問合せ 安城市歴史博物館 TEL:0566-77-6655



### 10月9日(金)～10月18日(日) 歴史のひろば展

- 【日時】 9時～17時(※最終日は16時まで)
- 【会場】 市民ギャラリー展示室A・B
- 【内容】 展示された作品の中から、歴史大賞・歴史賞が選ばれます。



問合せ  
文化振興課 文化財係  
TEL:0566-77-4477